

# 西日本インカレ（合同研究会）2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ) オオサカケイザイホウカダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) ビーエルピートクベツエンシュウキタジマ
大阪経済法科大学	経済学部	BLP 特別演習北島ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ) ストーン	フリガナ) ナカガワ モトキ	4	無
STONE	中川 元貴		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール（具体的に使用するツールを明記してください）

研究テーマ（発表タイトル）
地方銀行のリレーションシップバンキング業務の実態

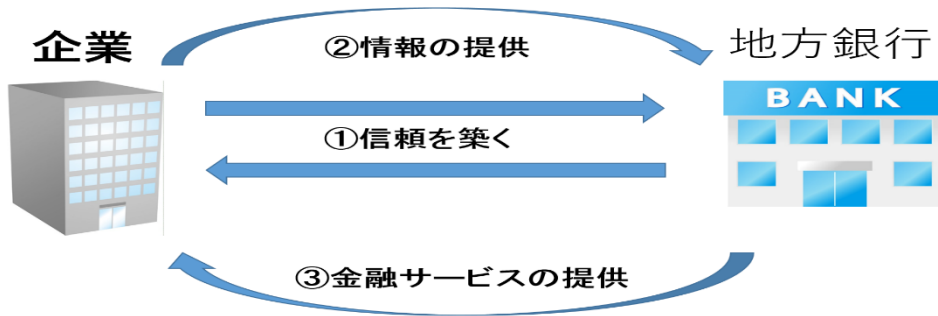
※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

## 1. 研究概要（目的・狙いなど）

今、地方銀行はマイナス金利政策の影響で収益が悪化している。

そこで、本研究は現在の地方銀行における問題点の解決策の一つであるリレーションシップバンキングについて着目し、その実態について研究するものである。

リレーションシップバンキングとは“金融機関と顧客との間で密接な関係を長く維持することにより顧客に関する情報を蓄積し、この情報を基に貸出等の金融サービスの提供を行うことで展開するビジネスモデル”（石川,2012,P.42）と定義されている。



リレーションシップバンキングのイメージ図

**2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）**

現在、地方銀行の収益は悪化の一途を辿っている。マイナス金利政策は日銀当座預金にマイナスの金利をかけることで銀行による企業や個人への融資を増やし経済を活性化させる政策である。しかし融資を増やすためには企業に関する情報が不足しており、結果として担保や保証に依存している。そのため、担保を用意できない企業にはなかなか融資を提供することができない。また、図 1 から分かるように企業側も担保を用意できないと貸出されない実態が多く積極的に融資に乗り出せない現状となっている。

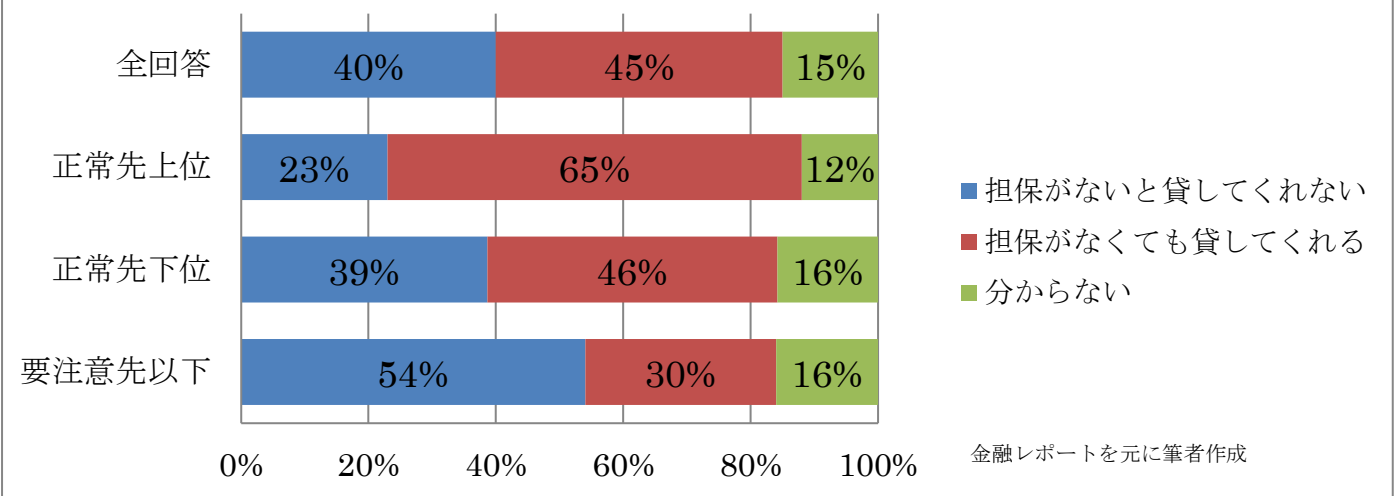
地方銀行は融資拡大のためにこうした担保・保証による融資体制から脱却し、信用による無担保融資の拡大のために、より企業の信用情報を獲得できるようなビジネスモデルに転換するべきである。

このことから、地方銀行と企業が関係性を築くことができる「リレーションシップバンキング」が必要であると考えた。（以下リレバンと表記する）

リレバンは平成 15 年の金融庁による “リレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム”にて公開され、以降金融機関による以降地方銀行の金融活動の中心となるはずだった。

しかしこのアクションプログラムによるリレバンの普及は満足な結果を挙げられず、現在では一部の地方銀行を除いて多くの地方銀行がリレバンの取り組みに対して消極的になっている現状がある。

**図 1 メインバンクの担保・保証依存に対する印象**



### 3. 研究テーマの課題

文献調査の結果過去のアクションプログラムによるリレバンには問題点が多いことが判明した

論文・著書	リレーションシップバンキングに対する評価
神戸大学 金融機関における貸出手法の決定要因	相対的に銀行側より借り受ける企業側のほうがリレバンによるメリットが多く、銀行にとってはリレバンがコストに見合っていない
中小企業金融の新展開	アクションプログラムの成果は一部の地域でしかみられなかった。 リレバンの理想の姿とは程遠い
地域活性化と融資先ランクアップ事例集	多くの金融機関がアクションプログラム当初に掲げた目標を達成できなかった。 リレバンに関する認識を銀行内で統一できず、銀行全体でリレバンの取り組みが不十分だった。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

この課題点に対し我々は現在実際にリレバンを活発的に行っている鹿児島銀行に訪問調査を行い、リレバンに対する問題点を伝えリレバンに対する認識を尋ねました。

<鹿児島銀行のリレバンの認識>

- リレバンは鹿児島銀行にとって当たり前の業務であり損得的な観点で評価しない
- 地方では人口減少に伴う企業数の低下が顕著であり、多少の損失も覚悟のうえでリレバンを行わないと存続できない
- 地方銀行とは地域に頼られなければ存在する意義がない

と考えていることが判明した

またリレバンに対する最新の金融レポートではリレバンは金融緩和の影響を受けづらく、現在の企業が銀行に求める信頼関係や企業の事業内容への深い理解とそれによる助言などのニーズに答えることが可能なビジネスモデルとして評価されていた。

### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

私たちは、初めに論文、著書を参考にリレバンについて調査した。ここで論文ではリレバンに関する問題点が判明しリレバンはビジネスモデルとして機能しないのではといった認識に至った。

その一方で各銀行のホームページを調査したところ、いくつかの銀行でリレバンを積極的に行い、その活動記録についての情報発信を行っている銀行を発見した。

そして、文献調査で知りえたリレバンの実態は本当に正しいのか疑問抱き、実際に銀行に訪問調査を行うことにした。リレーションシップバンキングを積極的に行っている鹿児島銀行に訪問調査をさせていただきました。

その後鹿児島銀行から現在の地方銀行における実態と地方銀行の本来の役割におけるリレバンの重要性について知り、地方銀行の現状の問題解決に関して考察した。

### 6. 結果や今後の取り組み

調査で判明した論文と銀行でのリレバンに対する認識の違いとしては、まず近年に起こった金融緩和政策によって地方銀行の環境が変化した点、またリレバンを制度と認識するか銀行の本質と認識するかの違いによるものだと考えられる。以上の調査結果よりリレバンとは本来は本質的なものであり業務内容として取り組むかどうかではなく取り組んで当たり前だということが分かった。

今回の研究でリレバンの実態とその可能性については理解できたが、リレバンによる実際の収益や問題の解決性などについては銀行の内部情報に迫る部分が多く、訪問調査などでも知ることができなかった。今後は別のアプローチから以上のことについて究明したい。

また我々は12月の中旬に百五銀行様への訪問調査を予定している。残念ながら今回の合同研究会の場でその成果を披露することはできないが、その際にはより現状の地方銀行の問題に向けたリレバンの可能性について調査する所存である。

## 7. 参考文献

日経電子版 (地銀の再編なぜ加速? 地方疲弊とマイナス金利で打撃) 閲覧日 2017/11/12

<https://style.nikkei.com/article/DGXXKZO15387470X10C17A4EAC002?channel=DF180320167063>

金融庁 平成 15 年 3 月 28 日 “リレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム” 閲覧日 2017/11/12

<http://www.fsa.go.jp/news/newsj/14/ginkou/f-20030328-2/02.pdf>

金融庁 平成 17 年 3 月 28 日 “地域密着型金融の機能強化の推進に関するアクションプログラム” 閲覧日 2017/11/12

<http://www.fsa.go.jp/news/newsj/16/ginkou/f-20050329-4/01.pdf>

金融庁 平成 28 年 9 月 15 日 「金融仲介機能のベンチマーク」について 閲覧日 2017/11/12

<http://www.fsa.go.jp/benchmark/index.html>

神戸大学 平成 21 年 ～金融機関における貸出手法の決定要因～平成 21 年 閲覧日 2017/11/12

<http://mba.kobe-u.ac.jp/life/thesis/workingpaper/2009/WP2009-11.pdf>

近畿財務局 各地域銀行の地域密着型金融 (リレーションシップバンキング) の取組み状況 閲覧日 2017/11/12

<http://kinki.mof.go.jp/rizai/pageknkhp00400010.html>

小藤康夫 (2009.01) 『中小企業金融の新展開』 財務経理協会

中村中・久保田博三・田中道彦 (2007.09) 『地域活性化と融資先ランクアップ事例集』 銀行研修社

多胡秀人 (2010.12) 『地域活性化とリレーションシップバンキング』 金融財政事情研究会

筒井義朗・植村修一 (2007.05) 『リレーションシップバンキングと地域金融』 日本経済新聞出版社

石川英文 (2012.10) 『地域中小企業向け貸し出し市場の現実』 中央経済社

### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更 (チームの人数・交代など) は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の (過去に他誌・HP などに発表されていない) ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先 (使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など) を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず使用するツール名をご記入ください。企画シートにご記入が無い場合は、発表当日の使用はできません。あらかじめご了承ください。

---

↑ここまでを 4 ページ以内に収めて、提出してください↑